
江戸川コナン誘拐事件

落ちぶれた天使

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

江戸川コナン誘拐事件

【Nコード】

N9033Y

【作者名】

落ちぶれた天使

【あらすじ】

これは江戸川コナン誘拐事件のつづきです。さきにそちらをおよみください。

誘拐

歩美「そろそろ帰ろう」

光彦「そうですね。もう5時ですし。」

げんた「じゃあまた学校でな！灰原！」

哀「ええ。」

博士「気をつけてかえるんじゃないぞ」

そういうと歩美達はあがさ邸を出て行った。

歩美「あれ？これコナン君のメガネじゃない？」

光彦「おかしいですね？なんでこんなところに・・・ってもしかして、コナン君、なにか事件にまきこまれたんじゃないですか!？」

げんた「まじかよ!？」

光彦「とりあえず博士と探偵事務所に行きましょう!」

光彦たちはそれから博士に事情をせつめいすると大急ぎで探偵事務所にやってきた。

それから事情をこごろうと蘭に説明した。

そのときだった。

電話がなった。

「そのころコナン」

コナン「ん、ここどこだ・・・？」

コナンがめをさました。

体が自由に動かない。

どうやら手を柱にしばらく縛られて足はロープでしばらく縛られて、口はガムテープをされているようだった。

コナン「あ、俺、誘拐されて・・・へんなさげねえな・・・ハハハ・・・」

そこに2人の男女がはいつてきた。

男のほうにははっきりと見覚えがある。

明石彰！？

コナン「まさか、おっちゃんに復習するために俺を！？」

女「あら、おきたみたいよ」

明石「ああ。じゃあ毛利探偵事務所に電話かけつとすつか。」

女「そうね。それにしてもかわいい坊やだね。ペットにしたいぐら

い。」

明石「子供じゃなくてペットかよ？」

女「だって、あの子いろいろと使えそうなんだもん」

明石「まあたしかにな。坊主の携帯とつてきてくれねーか？」

女「はいはい」

そういうと女がコナンにちかずいてきた。

コナンは必死に縄をほどこうとなわをひっぱっている。

女「かわいそうだから、ガムテープとつてあげるね。」

女はそういうとコナンのガムテープをとった。

コナン「お姉さん、明石さんの彼氏？」

コナンはお得意の子供スマイルでいった。

女「まあそんなとこかしら？安心して？あなたを殺すつもりはないから。まあおうちに帰すことはできないけどね」

コナン「ふーん。で？これはおじさんへの復習と逃亡金めあて？」

女「ええ。坊や、なかなか頭がいいじゃない」

コナン「うん。」

女「ちょっと携帯かしてね」

女はそういうとコナンの携帯をとりだした。

女「あれ、二つある。」

コナン「ねえお姉さん、このロープ、はずしてくれない？」

コナンがやっていることはもちろん完全なる演技だ。

本当は怒りが爆発しそうだった。

女「ごめんね。それはできないわ。今から毛利小五郎に電話するか
らおとなしくまってるのよ?」

女はそういうとコナンの口にふたたびガムテープをはった。

―探偵事務所―

PPRRRRRRRRRRRRRR

小五郎が取るうとした電話を哀がさつととってスピーカーにするとうけこたえた。

哀「もしもし」

明石「ん？お前はだれだ？」

哀「じゃああなたはだれ？」

明石「その様子からするとあのガキの彼女かなにかか？」

哀「ちがうわ。その人は私が作った薬の実験台ってところね。」

明石「まあいい。お前んとこのガキはあずかった。返してほしければ2時間いないに5000万、あとで指示するところにもってこい。」

哀「上等よ。だけど、私の実験台をつかえなくしたら今度はあなたを私の薬の実験台にするからたのしみにしておいて？それと、私の実験台の声、きかせてくれるかしら？」

あかし「生意気ながきだぜ。ほらよ。」

明石がコナンのガムテープをとるとコナンの耳にケータイをおしつけた。

コナン「灰原か？」

哀「あなた無事なの？」

コナン「ああ。まあな。手足はしばらくはつけど。それとたのみてえことがあんだけどさ。今日発売の探偵左門時シリーズの最新刊かっついてくれねーか？うりきれちまつかもしれねえし。」

哀「あいかわらずの推理馬鹿ね。い・や・よ。で。」

小五郎たちはスピーカーからきこえるコナンの声にあきれていた。

コナンはとにかくおちつきまくっている。

哀「あなた、今どういう状況にあるかわかってるの？」

コナン「わあってるよ……」

哀「じゃあ今どこにいるの？」

コナン「さあ？窓から海が見える。たぶん、米花じゃってムゲツ！」

哀「ちよつと、江戸川君！？江戸川君になにをしたの！？」

明石「ちよつと口をふさいただけだよ。いらんことをぺらぺらと……
。じゃあ場所はまたれんらくする。」

哀「あちよ、」

電話がきれた。

哀「きれたわ。電話。」

小五郎「そうか……にしてもコナンのやつ、危機感ゼロだな……」

歩美「そうだね……」

げんた「まさかあそこで推理小説の注文するとはおもわなかったぜ……」

光彦「ですね……」

蘭「とりあえず、警察に電話しよー！」

小五郎「そうだなー！」

「そのころコナンー」

明石「たく、余計なことしゃべりやがって。」

女「ほんと、けっこー頭いいわねこの子。」

コナン「（あーうぜーむかつく奴等だぜ。とにかく、縄ほどかなく
ちやなんねえな。）」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9033y/>

江戸川コナン誘拐事件

2011年11月27日02時00分発行